

## 5 最近発見したヒポクラテス画像と 賛文について

蒲原 宏

緒方富雄氏に『日本におけるヒポクラテス賛美——日本  
本のヒポクラテス画像と賛の研究序説』日本医事新報社  
刊（昭和四六年）がある。

原資料の八〇点が同年三月二〇日—四月一日まで梅  
沢記念館で展示され好評であった。

ヒポクラテス画像への関心が高まり、その後の調査で、  
佐藤正持（二八〇九—一五七）の作品（守屋正蔵）月舟画（杉  
立義一蔵）川原慶賀画、坪井信道賛（和田和代史蔵）が発  
見、紹介されるようになった。

最近新に五点を発見し調査することができたのでその  
結果を報告し、今後の発見により、西洋医学とその思想  
の日本各地への滲透の指標としての重要性について言及  
したい。

(一) 石川孟高筆 ヒポクラテス像 墨彩絹本今井元彦氏  
（長岡市）旧蔵、LEEUW BERG の署名がある。賛文は  
Hipp OCRA TES COÛS in griken land, door Leeuw  
Bergとある。神戸市南蛮美術館蔵のシーボルト賛文の  
ある、兄石川大浪のヒポクラテス像と全く同じ図柄であ  
る。製作年代不詳。

(二) 石川孟高（のりま乗備・甲三郎）筆 ヒポクラテス像 彩色  
絹本、BSN 美術館（新潟市）旧展示、賛文は Hipp  
OCRATS COÛS. In gricken Land. door Leeuw Berg と  
ある。

源秀飛の画像に文政六年（一八二三）冬小森桃塙が賛を  
した一軸（旧富士川游蔵・現在所在不明）と構図が同じで、  
天使像を伴う。

(三) ヒポクラテス像（筆者不詳）墨彩絹本、右下に de  
Vellenever と署名がある一幅。BSN 美術館旧展示。Hipp  
POKRAES. の誤字の賛がある。これは一八〇九年 J.  
Wilks が発行した J. Chapman の銅版画を模写した宇田  
川榕庵筆のヒポクラテス像（早稲田大学蔵）の裏返しの構  
図である。de Vellenever は、作者名と思われる。

(四) 石日向雲山筆 ヒポクラテス像 大久保黄斎(通理・

蘭香堂一八一―一九五)賛、彩色紙本一幅。昭和五〇年木内書店より購入家蔵。画家の署名には「於長崎嘉慶利先生爲求図書写之 長秋住石日向雲山交連入道隠士筆」と「雲山」の雅印。漢人の服装で机の前に椅座している奇怪なヒポクラテス像で、年代不詳。

軸に「醫祖ヒツポカラテス」とあり、賛文には

西方有美人(西方美人有り)

鶴髮皓如銀(鶴髮皓として銀の如し)

雙眼睨寰宇(雙眼寰宇を睨む)

片言驚鬼神(片言鬼神を驚かす)

高天仁不極(高天の仁極まらず)

大海智無垠(大海の智垠り無し)

赫々吾醫祖(赫々たり吾醫祖)

光輝照萬春(光輝は萬春を照す)

依朴加勒徳私之讚 通理「蘭香堂」「通理字中泉」印あり。黄斎の師坪井信道のヒポクラテス賛文と「吾」「我」の違いだけで師の賛文の剽窃である。黄斎は甲斐国中巨摩郡大井村古市場出身、天保七年日習堂入門、埼玉医学

校長。兄章信はシーボルトの門人と伝えられる。

(五) 山田成章筆 ヒポクラテス像 大版彩色額 山形市

済生館博物館蔵、明治十二年一月に済生館に寄贈されたものと伝えられている。

マサール(J. Masard)原画の聖ヒエロニムス系の画像を参考にして描かれたものである。その他、日本脳神経外科学の父中田瑞穂博士(一八九三―一九七五)が昭和四六―七七年に描いた四点のヒポクラテス像を紹介する。

賛文としては長岡藩洋学者小林虎三郎(病翁一八二七―七七)の『求志洞遺稿』(明治二七年)所収の「依卜加勒得斯画像賛」の原文と読下し文を紹介する。この画像は未発見。

天降哲人 西海之頭 方術聿脩 黎庶以休

來學有師 斯道日優 孰謂醫小 澤被五洲

「天哲人を降す、西海の頭、方術を聿脩して黎庶以て休す。來り學ぶに師あり、斯道日に優なり。孰れか医を小なりと謂ふ。沢五洲に被る。」今後全国各地に埋れているヒポクラテス資料の発掘が望まれる。

(日本歯科大医の博物館)